

## 第13回マイクロマシンサミット（イタリア、ベニス）の報告

### 1. 18の国、地域から100名が参加

第13回国際マイクロマシンサミットが、4月26日（木）から28日（土）の3日間、イタリア・ベニスのテレコム・フューチャー・センターで開かれました。

今回は、オーストラリア、カナダ、中国、フランス、ドイツ、インド、日本、韓国、ルーマニア、シンガポール、スイス、台湾、イギリス、米国、ベネルックス（ベルギー、オランダ、ルクセンブルク）、EU、地中海沿岸地域（イタリア、スペイン、ポルトガル、ギリシャ）、ノルディック（デンマーク、ノルウェー、スウェーデン、フィンランド）の18ヶ国・地域から100名（昨年は88名）のデリゲートおよびオブザーバーの方々に参加されました。なお、ルーマニアは初の参加です。

日本からは、東京大学下山勲教授をチーフデリゲートとして、オブザーバー参加を含め10名の方々に参加されました。

### 2. 4つのセッションに55件の発表

会議はThe Sant' Anna School of Advanced Studies of PisaのPaolo Dario教授がGeneral Chair、ITC-irstのMario ZenをGeneral Co-Chairとして進められ、26日と27日の2日間に、以下の4つのセッションで、55件の発表がありました。

Country / Region Review

Tools for Growth: Strategies, Cooperation, Infrastructures and Education,

From Research to Commercialization and Standardization: Market, Industrialization and Standardization

New Concepts and Technologies

### 3. 日本からは東大下山教授はじめ5件の発表

日本からは5件の発表があり、のセッションでは東京大学下山勲教授より「Fine MEMS - The Highly Integrated, Complex MEMS Project - 」と題し、昨年度からスタートした高集積・複合MEMS製造技術開発プロジェクトの中間状況に関する発表が行われ、のセッションでは当センター専務理事青柳桂一より「MEMS Industry Forum: Market, Standardization and Industry Development」と題し、MEMS協議会を中心に当センターの活動に関する発表が行われ、また、オリンパス(株)唐木幸一執行役員より「Recent Progress of MEMS and Nano-Technology at Olympus」が発表されました。のセッションでは、松下電工(株)荒川雅夫理事から「Wafer Level Packaging Technology at Matsushita Electric Works」、オムロン(株)今仲行一執行役員常務より

「Recent Activity on Micro / Nano Technology at OMRON Corporation」の発表が行われました。

日本の発表はいずれも内容が具体的であり、海外の参加者から非常に好評であり、サミットの永久事務局としてのわが国の立場を各国に再認識させたように思われました。

28日にはテクニカルツアーが行われ、ベネト州のナノテク・クラスターのひとつであるNanoFabの見学が行われ、成功裏にサミットは閉会しました。

### 4. 第14回サミットは韓国で開催

第14回マイクロマシンサミットは2008年4月30日（水）から5月3日（土）に、韓国の太田（Daejeon）で開催されることが決まりました。今後、サミットがMEMSおよびナノテクノロジーに関する国際交流の場として益々活性化することが期待され、大いに活用して頂きたいと思っております。



参加者集合写真：Future Telecom Center中庭



代表団リーダー：東京大学下山教授の講演